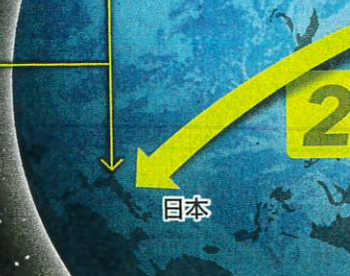


世界の「目」で一斉観測

観測に参加した望遠鏡



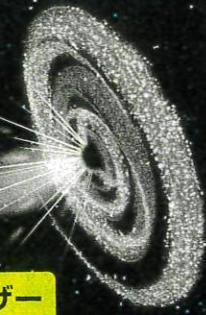
1 南極のアイスキューブが特殊な光を検知。千葉大が開発したシステムで高エネルギーのニュートリノと判断

2 世界各地の望遠鏡に追加観測を呼びかける

3 40億光年先の「レーザー天体」が放出源と特定

レーザー天体

- ◆中心のブラックホールをガスが取り囲み、プラズマを噴き出す
- ◆プラズマ内で宇宙線が光とぶつかり、ニュートリノが発生



アイスキューブや東京大、広島大、国立天文台、米航空宇宙局などの資料を基に作成

日本のニュートリノ研究の歴史

1987年	小柴昌俊・東京大特別栄誉教授が岐阜県の観測装置「カミオカンデ」で、超新星爆発によって放出されたニュートリノを観測する
1998年	梶田隆章・東京大宇宙線研究所長が「スーパーカミオカンデ」によって、ニュートリノに質量があることを証明する
2012年	千葉大などの国際チームが、アイスキューブを使って高エネルギーのニュートリノを観測する
2018年	千葉大などの国際チームが、高エネルギーのニュートリノの放出源を特定する



デザイン部 安芸智崇

ニュートリノ 放出源探せ